



SATELLITE
DESIGN
CONTEST

衛星設計コンテスト

活動趣意書

衛星設計コンテストは高校生から大学院生までの学生を対象にしたコンテスト形式の教育プログラムです。学生たちの自由な発想の基、小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションを考案し、その意義や設計に関する技量を競い合うプログラムです。

本コンテストは、宇宙に関わる研究開発の最前線で活躍している専門家が審査員を務め、着想点、創意工夫、基礎的な技術知識、将来性といった様々な観点から審査を行っていきませんが、単に優れた作品を選び表彰するのが目的ではありません。審査員は、参加いただいた全ての作品に対して、学生たちの意欲継続・将来へのステップアップにつながるアドバイスをを行います。

1993年に第1回大会を開催して以来、毎年実施してきたこのコンテストも20回を超えるにいたりました。第1回大会で電子情報通信学会賞を受賞した千葉工業大学の鯨生態観測衛星「観太くん」は、2002年にH-IIA ロケット4号機で打ち上げられ、約5年にわたり多くの発展性を秘めた計画の実証実験を行いました。それ以降も、多くの学生たちの参加を得ながら回を重ねる中で、いくつもの衛星が打ち上げられるなど、宇宙への夢を育む母体として機能するとともに、我が国の宇宙開発のすそ野拡大に寄与してまいりました。こうした活動に対する功績が認められ、「平成25年度宇宙開発利用大賞」にて、栄えある文部科学大臣賞を受賞いたしました。

一方、日本の宇宙開発は、今や世界のトップレベルに到達したと言っても過言ではありません。世界の15の国が協力して建設し、現在運用を行っている国際宇宙ステーションにおいて、日本は独自に開発した実験施設「きぼう」を提供。その優れた技術は、関係各国から高い評価を得ています。また、世界に先駆け、月以外の天体からのサンプルリターンに成功した小惑星探査機「はやぶさ」の偉業は、日本の高い技術力を世界に証明しました。

昨今、アジアの国々においては、独自に宇宙開発を推し進めようとする動きが出てきています。宇宙開発先進国となった日本は、アジア地域でのイニシアティブを発揮し、そういった国々への支援を行いながら、日本の宇宙産業の活性化を図ろうとしており、国をあげた本格的な取り組みが始まろうとしています。

本コンテストは、このような時代の流れも踏まえ、若いうちから国際感覚を養い、将来の宇宙開発分野の担い手となる優秀な人材を育てるべく、その登龍門としての役割を今後とも担ってまいります。

2014年6月

衛星設計コンテスト
実行委員会